

# 強化戦略プラン

【冬季：2026/2030】

## カーリング

2023/06/15

強化責任者 柳 等

役職名 強化委員長

連絡先：

E-mail：

## 6

強化戦略プランの改定履歴を記載する。

バージョン	日付	作成・改定者	修正・変更点
1.0	令和4年6月30日	柳等	
1.1	令和4年12月15日	柳等	バージョン 1.0 p.4, 11 行目文言修正 バージョン 1.0 p.5, 6 行目削除
2.0	令和5年6月14日	柳等	ミックスダブルスカーリングの「2026年オリンピックの目標」を「6位入賞」に修正。 4年プランの「目標達成に向けたマイルストーン」の結果を記入。また、マイルストーンを一部修正。 大会結果, 世界チームランキング等を修正。それらに合わせた文章の修正。
2.1	令和5年6月14日	柳等	p.22 6 行目「別添 5) 強化チーム選考規程」を加筆。

### ○バージョン管理

年度内での更新： 小数点に 1 を加算 例) 1.0 → 1.1

年度をまたぐ更新： 整数に 1 を加算 例) 1.0 → 2.0

# 目次

目次.....	3
<b>1. 現状把握.....</b>	<b>4</b>
1-1：競技や種目における歴史と背景 .....	4
1-2：現状の国際競技力 .....	5
1-3：国際競技力向上に向けた強みと弱み.....	10
<b>2. 中長期計画 .....</b>	<b>11</b>
2-1：育成・強化のためのアスリートパスウェイ.....	11
2-2：4年プラン.....	12
2-2-1：目標（現状可能な目標）とマイルストーン.....	12
2-2-2：目標達成のための戦略方針 .....	15
2-2-3：ターゲットアスリート、指導者（コーチ）、強化スタッフ.....	17
2-3：8年プラン.....	18
2-3-1：目標（現状可能な目標）とマイルストーン.....	18
2-3-2：8年後の目標達成を見据えた育成・強化の基本方針.....	19
2-3-3：ターゲットアスリート、指導者（コーチ）・強化スタッフ.....	19
<b>3. 強化戦略プラン推進体制と環境整備 .....</b>	<b>21</b>
3-1：拠点.....	21
3-2：強化戦略プラン推進体制 .....	21
<b>4. 別添資料.....</b>	<b>22</b>

# 1. 現状把握

## 1-1：競技や種目における歴史と背景

### <男子カーリング>

オリンピック冬季競技大会のカーリングは1998年の長野大会で正式メダル種目となった。日本男子は1998年長野大会と2018年平昌大会に出場している。平昌大会にはSC軽井沢クラブが出場し、7位に入賞した。平昌大会に出場したSC軽井沢クラブのチームは解散したが、元メンバーがそれぞれ別のチームで活動を始め、国内で競合するチームが複数誕生した。その後、日本代表となったのはコンソドーレであった。コンソドーレは日本カーリング選手権大会（JCC）を平成30年度（第36回大会）から令和2年度（第38回大会）まで三連覇し、安定した力を発揮してきた。さらに、2018年パシフィックアジアカーリング選手権大会で優勝、2019年世界男子カーリング選手権大会（WMCC）で4位入賞した。世界カーリング連盟（WCF）世界チームランキングは16位まで上昇し、グランドスラム大会に出場するなど強化の好循環に入ることができ、北京大会へ連続出場が期待された。2020年WMCCは新型コロナウイルス感染症の影響で中止。2021年WMCCでは9位となり、北京大会の出場権を懸けたオリンピック最終予選大会（OQE）に進むこととなった。チームは2021年10月から11月末までカナダでアーセルコーチとともに海外強化合宿を実施し、グランドスラム大会を含む国際ツアー大会5大会に出場し、国際試合経験を積んでOQEに臨んだ。OQEの結果は6位で予選敗退となり、北京大会への出場権を獲得することはできなかった。

2022年世界選手権最終予選には、2022年世界カーリング選手権日本代表選考会を制した常呂ジュニアが出場した。3勝3敗で5位となり、予選敗退となり、2022年WMCC出場権を獲得できなかった。また、常呂ジュニアは2022年世界ジュニアBカーリング選手権大会にも出場。予選グループCで5戦全勝としたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため大会が中止となってしまう、惜しくも2022年世界ジュニアカーリング選手権大会（WJCC）の出場権を獲得することはできなかった。

令和3年度（2021-22）第39回JCCを制したのは、SC軽井沢クラブであった。SC軽井沢クラブは2022年パンコンチネンタルカーリング選手権大会（PCCC）に日本代表として出場。4位に入賞し、WMCC出場権を獲得した。SC軽井沢クラブは令和4年度（2022-23）第40回JCCを連覇し、2023年WMCCに出場し、7位に入賞した。

### <女子カーリング>

日本女子は長野大会以来7大会連続でオリンピックに出場している。2018年平昌大会には、2016年世界女子カーリング選手権大会準優勝のLS北見（藤澤五月、吉田知那美、鈴木夕湖、吉田夕梨花、本橋麻里）が日本代表として出場。イギリスとの3位決定戦を制し、初の銅メダル獲得となった。北京大会に向けての課題は、国内の強化チーム間で切磋琢磨し、世界のトップを争えるように国際競技力を向上させること、より多くの強化チームを海外強化合宿に派遣して多くの国際試合経験を積みさせることであった。

2022年北京大会の日本代表選手の選考では、第37回日本カーリング選手権大会優勝のロコソラーレと第38回同大会優勝の北海道銀行が対象となった。二チーム間でベストオブファイブの試合形式の日本代表決定戦を2021年9月に実施した。ロコソラーレが3勝2敗で決定戦を優勝し、藤澤五月、吉田知那美、鈴木夕湖、吉田夕梨花、石崎琴美が日本代表として選出された。チームはリンドナショナルコーチと合流し、同年10月から11月にかけてグランドスラムやワールドカーリングツアーなど計四大会に参戦。国際試合経験を積んだ後、同年12月オランダで開催されたオリンピック最終予選会に臨んだ。ラウンドロビンを2位で通過し、大韓民国とのプレーオフを制し、北京大会の出場権を獲得した。2022年北京大会には同選手5名が出場した。予選を5勝4敗で通過し、準決勝でスイスを8-6で下し、初の決勝進出を果たした。決勝ではイギリスに敗れ準優勝となり、銀メダルを獲得した。二大会連続メダル獲得となった。

北京大会後の第 39 回 JCC はロコソラーレが優勝。2022 年 PCCC に日本代表として出場し、優勝。第 40 回 JCC も引き続き制し、2023 年世界女子カーリング選手権大会(WWCC)に日本代表として出場し、6 位入賞した。

女子の次世代を担うチームや若手選手が台頭してきている。第 39 回 JCC 3 位の北海道銀行、2022 年 WJCC 優勝の SC 軽井沢クラブ Jr.、2023 年 WJCC 準優勝のジュニア日本代表チーム（選抜）などの選手がいる。

#### <ミックスダブルスカーリング>

ミックスダブルスカーリングは、2018 年平昌大会から採用された種目で、8 チームで実施された。2022 年北京大会では 10 チームで行われている。残念ながら日本は二大会とも出場を逃している。

2018 年と 2019 年の世界ミックスダブルスカーリング選手大会（WMDCC）には、日本代表として藤澤・山口が出場し、連続で 5 位入賞を果たした。2020 年 WMDCC 日本代表は松村・谷田であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で大会が中止となった。2021 年 WMDCC には吉田・松村が出場し、予選グループ B で 8 位（3 勝 6 敗）、全体で 15 位であった。北京大会のオリンピック最終予選会には、2021 年 9 月の日本代表決定戦を制した松村・谷田が出場。予選グループ B で 6 位（2 勝 4 敗）で敗退。オリンピック出場権を獲得することはできなかった。

2022 年 MDCC には、日本代表として松村・谷田が出場した。予選グループ A5 位（6 勝 3 敗）、全体で 9 位という成績であった。この大会では、オリンピック最終予選での経験をいかし、ミックスダブルスにおける特有の戦略やアイスリーディングスキルが大きく改善され、プレーオフ進出まであと 1 勝という結果であった。国際大会への慣れが今後の課題となった。

2023 年 WMDCC には、第 16 回日本ミックスダブルスカーリング選手権大会(JMDCC)優勝の松村・谷田が出場した。予選グループ B を 1 位（7 勝 1 敗）で通過し、準決勝でノルウェーを下し、決勝へ進出。決勝ではアメリカに敗れ、準優勝となった。松村・谷田はシーズンを通してミックスダブルスに専念し、海外ツアー大会で国際試合経験を積み、その成果が結実した。ミックスダブルス強化チームの多くは 4 人制トップチームの選手で構成するチーム（強化委員会推薦チーム）であるが、今後は国際ツアー大会への積極的に参戦することを一層促進し、国際競技力の高いミックスダブルスチームを増やすことが求められる。

## 1-2 : 現状の国際競技力

### 1) 諸外国の動向

#### <男子カーリング>

表 1. 世界カーリング連盟(WCF)世界ランキングの上位十か国（令和 5 年 5 月 22 日現在）。

1 位 スウェーデン	6 位 アメリカ
2 位 スコットランド	7 位 ノルウェー
3 位 カナダ	<b>8 位 日本</b>
4 位 スイス	9 位 ドイツ
5 位 イタリア	10 位 韓国

世界カーリング連盟(WCF)世界ランキング上位 7 か国は昨年シーズンと比較して大きな変化はない。日本は昨シーズンから順位を二つ上げて 8 位にランクされている。

表 2. WCF 世界チームランキング（各国最上位チーム）（令和 5 年 5 月 22 日現在）。

1 位 Gushue（カナダ）	10 位 Dropkin（アメリカ）
-----------------	--------------------

2位 Mouat (スコットランド)	11位 Ramsfjell (ノルウェー)
3位 Edin (スウェーデン)	14位 Gosgens (オランダ)
5位 Retornaz (イタリア)	<b>16位 SC 軽井沢クラブ (日本)</b>
7位 Schwaller (スイス)	32位 Jeong (韓国)

WCF 世界チームランキング（各国最上位チーム）の5番目までは昨シーズンと変わらないものの、5位 Retornaz（イタリア）は順位を三つ、7位 Schwaller（スイス）は七つあげている。6番目の10位 Dropkin（アメリカ）は Shusterに代わりアメリカ最上位チームとなっている。8番目のGosgens（オランダ）は2022年ヨーロッパ選手権大会Bディビジョンでは優勝し、2022-23シーズン当初の32位から飛躍的に順位を上げてきたチームである。日本の最上位チームはSC 軽井沢クラブ（世界チームランキング16位）で、9番目のチームとなっている。

表3. 2022年北京大会の上位チーム（プレーオフ進出チーム）。

1位 スウェーデン(Edin)	3位 カナダ(Gushue)
2位 イギリス (スコットランド) (Mouat)	4位 アメリカ(Shuster)

表4. 2023年世界男子カーリング選手権大会の上位チーム（プレーオフ進出チーム）。

1位 スコットランド(Mouat)	3位 スイス(Schwaller)	5位 ノルウェー(Ramsfjell)
2位 カナダ(Gushue)	4位 イタリア(Retornaz)	6位 スウェーデン(Edin)

## 7位 日本 (SC 軽井沢クラブ)

### <女子カーリング>

表5. WCF 世界ランキングの上位十か国（令和5年5月22日現在）。

1位 スイス	6位 アメリカ
2位 スウェーデン	7位 スコットランド
3位 カナダ	8位 ノルウェー
<b>4位 日本</b>	9位 デンマーク
5位 韓国	10位 イタリア

WCF 世界ランキング上位7か国は昨年シーズンと比較して大きな変化はない。日本は昨シーズンから順位を1つ上げて4位にランクされている。

表6. WCF 世界チームランキング（各国最上位チーム）（令和5年5月22日現在）。

1位 Einarson (カナダ)	9位 Peterson (アメリカ)
2位 Tirinzoni (スイス)	13位 Roervik (ノルウェー)
<b>4位 ロコソラーレ (日本)</b>	14位 Constantini (イタリア)
5位 Gim (韓国)	22位 Morrison (スコットランド)
7位 Wrana (スウェーデン)	23位 Jentsch (ドイツ)

WCF 世界チームランキング（各国最上位チーム）は、昨シーズンと顔ぶれが異なる。1番目の1位 Einarson（カナダ）、4番目5位 Gim（韓国）、5番目7位 Wrana（スウェーデン）、7番目の13位

Roervik（ノルウェー），8番目の14位 Constantini（イタリア），9番目の22位 Morrison（スコットランド）がランクされた。日本の最上位チームは3番目の4位ロコソラーレ）である。

表 7. 2022年北京大会の上位チーム（プレーオフ進出チーム）。

1位 イギリス（スコットランド）(Muirhead)	3位 スウェーデン(Hasselborg)
<b>2位 日本（ロコソラーレ）</b>	4位 スイス(Tirinzone)

表 8. 2023年世界女子カーリング選手権大会の上位チーム（プレーオフ進出チーム）。

1位 スイス(Tirinzone)	3位 カナダ(Einarson)	5位 イタリア(Constantini)
2位 ノルウェー(Roervik)	4位 スウェーデン(Hasselborg)	<b>6位 日本（ロコソラーレ）</b>

### <ミックスダブルスカーリング>

表 9. WCF 世界ランキングの上位十か国（令和5年5月22日現在）。

1位 ノルウェー	6位 スイス
2位 スコットランド	7位 イタリア
3位 アメリカ	<b>8位 日本</b>
4位 スウェーデン	9位 オーストラリア
5位 カナダ	10位 チェコ

表 10. WCF 世界チームランキング（各国最上位チーム）（令和5年5月22日現在）。

1位 Jones/Laing（カナダ）	<b>8位 松村・谷田（日本）</b>
2位 Perret/Rios（スイス）	9位 Roenning/Braenden（ノルウェー）
3位 Kaldvee/Lill（エストニア）	15位 Westman/Ahlberg（スウェーデン）
4位 Dodds/Mouat（スコットランド）	17位 Lander/Holtermann（デンマーク）
7位 Thiesse/Dropkin（アメリカ）	24位 Schoell/Harsch（ドイツ）

表 11. 2022年北京オリンピックの上位チーム（プレーオフ進出チーム）。

1位 イタリア(Constantini/Mosaner)	3位 スウェーデン(De Val/Eriksson)
2位 ノルウェー(Skaslien/Nedregotten)	4位 イギリス（スコットランド）(Dodds/Mouat)

表 12. 2023年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会の上位チーム（プレーオフ進出チーム）。

1位 アメリカ(Thiesse/Dropkin)	4位 カナダ Jones/Laing)
<b>2位 日本（松村・谷田）</b>	5位 エストニア(Kaldvee/Lill)
3位 ノルウェー(Roenning/Braenden)	6位 スコットランド(Dodds/Mouat)

## 2) 自国

### <男子カーリング>

令和5年5月22日現在のWCF世界チームランキングによると、日本チームのランキングは、16位SC軽井沢クラブ、38位TM Karuizawa、53位札幌国際大学、75位コンサドーレ、78位北見協会、となっている。新型コロナウイルスの影響も小さくなり、海外強化合宿を実施できるようになり、昨シーズンよりも、全体的に順位が上昇している。

表 13 には 2018 年～2023 年 JCC 上位成績チームを示した。本会の強化対象（エリート強化チーム A, B, C）は「強化チーム選考規程」に従い、前年度 JCC 成績, WTR の順位等によって決定する。令和 5 年度エリート強化チームは, A SC 軽井沢クラブ, B 北見協会, C TM Karuizawa, コンサドーレである。エリート強化チーム A の SC 軽井沢クラブは 2023 年 PCCC に日本代表として出場する。

表 14 には 2018 年～2023 年日本ジュニアカーリング選手権大会(JJCC)上位成績チームを示した。令和 5 年度ジュニア強化チームは, A チーム札幌, B Minamifurano, C チーム高橋, チーム阿部である。ジュニア強化チーム A のチーム札幌は世界ジュニア B カーリング選手権大会に出場し, 2024 年 WJCC 出場を目指す。これまでジュニアカテゴリーで活躍してきた札幌国際大学や常呂ジュニアがトップチームカテゴリーでも頭角を現すようになってきた。徐々に男子トップチームの層も厚みを増してきており, 国内での競争力が高まりつつある。

表 13. 日本カーリング選手権大会男子の部上位成績 (2018 年～2023 年) .

	1 位	2 位	3 位	4 位
2023 (令和 4 年度)	SC 軽井沢クラブ	北見協会	コンサドーレ	TM Karuizawa
2022 (令和 3 年度)	SC 軽井沢クラブ	札幌国際大学	コンサドーレ	北見協会
2021 (令和 2 年度)	コンサドーレ	常呂ジュニア	TM 軽井沢	SC 軽井沢クラブ
2020 (令和元年度)	コンサドーレ	TM 軽井沢	SC 軽井沢クラブ	名寄市役所
2019 (平成 30 年度)	コンサドーレ	チーム東京	札幌国際大学	名寄協会
2018 (平成 29 年度)	teamIWA	チーム北海道	軽井沢 CC	名寄協会

表 14. 日本ジュニアカーリング選手権大会男子の部上位成績 (2017 年～2023 年).

	1 位	2 位	3 位	4 位
2023 (令和 4 年度)	チーム札幌	Minamifurano	チーム高橋	チーム阿部
2021 (令和 3 年度)	常呂ジュニア	札幌国際大学	チーム石村	札幌ジュニア
2020 (令和 2 年度)	札幌国際大学	チーム AOKI	常呂ジュニア	青森 CA
2019 (令和元年度)	札幌国際大学	札幌ジュニア	常呂ジュニア	軽井沢中学校
2018 (平成 30 年度)	チームかまだ	チーム AOKI	SC 軽井沢クラブ Jr.	札幌ジュニア
2017 (平成 29 年度)	チームかまだ	札幌学院大学	軽井沢ジュニア	長野 CA

#### <女子カーリング>

女子の WCF 世界チームランキング (令和 5 年 5 月 22 日現在) を見ると, 4 位ロコソラーレ, 19 位中部電力, 25 位フォルティウス, 44 位 SC 軽井沢クラブとなっている。

表 15 には 2018 年～2023 年 JCC 上位成績チームを示した。令和 5 年度エリート強化チームは, A LOCOSOLARE, B SC 軽井沢クラブ, C 中部電力, フォルティウスである。エリート強化チーム A の LOCOSOLARE は 2023 年 PCCC に日本代表として出場する。

表 16 には 2018 年～2023 年日本ジュニアカーリング選手権大会(JJCC)上位成績チームを示した。令和 5 年度ジュニア強化チームは, 札幌協会, B 名寄協会 JC, C 札幌ジュニアである。ジュニア強化チーム A の札幌協会は 2024 年世界ジュニアカーリング選手権大会に出場する。男子と同様に, ジュニアカテゴリーで活躍してきたチームがトップチームに加わり, 国内での競争力を高めている。

表 15. 日本カーリング選手権大会女子の部上位成績 (2018 年～2023 年) .

	1 位	2 位	3 位	4 位
2023 (令和 4 年度)	LOCOSOLARE	SC 軽井沢クラブ	中部電力	フィロシーク青森
2022 (令和 3 年度)	LOCO SOLARE	中部電力	北海道銀行	フォルティウス



2021 (令和2年度)	北海道銀行	LOCO SOLARE	中部電力	富士急
2020 (令和元年度)	LOCO SOLARE	中部電力	北海道銀行	富士急
2019 (平成30年度)	中部電力	LOCO SOLARE	北海道銀行	富士急
2018 (平成29年度)	富士急	北海道銀行	中部電力	青森 Jr

表 16. 日本ジュニアカーリング選手権大会女子の部上位成績 (2017年～2023年).

	1位	2位	3位	4位
2023 (令和4年度)	札幌協会	名寄協会 JC	青森 CA	札幌ジュニア
2021 (令和3年度)	SC 軽井沢クラブ Jr.	名寄協会 JC	チーム大関	札幌協会
2020 (令和2年度)	札幌協会	SC 軽井沢クラブ Jr.	名寄協会 JC	チーム札幌
2019 (令和元年度)	SC 軽井沢クラブ Jr.b	札幌協会	SC 軽井沢クラブ Jr.a	チーム妹背牛
2018 (平成30年度)	SC 軽井沢クラブ Jr.a	青森県協会	Karuizawa Jr.	札幌 CA
2017 (平成29年度)	名寄ジュニアクラブ	Karuizawa Jr.	青森県協会	札幌ジュニア

#### <ミックスダブルスカーリング>

日本の WCF 世界ランキングは 8 位である。WCF 世界チームランキングで日本最上位は、8 位の松村・谷田である (令和 5 年 5 月 22 日現在)。

表 17 に、2017 年～2023 年 JMDCC 上位成績チームを示した。令和 5 年度エリート強化チームは、A 松村・谷田、B 小穴・青木である。

表 17. 日本ミックスダブルスカーリング選手権大会上位成績チーム (2018 年～2023 年)。

	1位	2位	3位	4位
2023 (令和4年度)	松村・谷田	小穴・青木	吉田・松村	藤澤山口
2022 (令和3年度)	中止			
2021 (令和2年度)	吉田・松村	松村・谷田	小穴・青木	チーム柳澤
2020 (令和元年度)	松村・谷田	藤澤・山口	吉田 清水	北見工業大学
2019 (平成30年度)	藤澤・山口	鈴木・平田	札幌国際大学	藤澤・小野寺
2018 (平成29年度)	藤澤・山口	北澤・平田	吉田 清水	チーム北村
2017 (平成28年度)	チーム阿部	チーム青木	チーム松村	苫米地

### 1-3 : 国際競技力向上に向けた強みと弱み

国内に公的施設の通年型カーリング専用施設が六か所ある（軽井沢町，札幌市，北見市，稚内市，青森市）。これらの地域の選手にとってシーズンに関係なくオンアイス練習を一定量確保できることが優位な点である。オンアイスでの基礎練習を十分に行い，基本動作の技術を確実に習得することが，国際大会での安定したパフォーマンス発揮につながっている。

日本女子の強みは，国際競技力向上を図るための海外強化合宿を実施可能な財源を確保できるチームが複数あることである。北京大会までは，4チーム（ロコソラーレ，中部電力，フォルティウス，富士急）が鎬を削ってきた。2023年の第40回JCCでは，SC軽井沢クラブやフィロシーク青森が上位入賞している。また，北海道銀行やSC軽井沢クラブJrなど，これまでジュニアのカテゴリーで活躍してきた若手チームや選手が台頭してきている。今後は国内での競争は激化すると予想され，国内チームのさらなる競技力向上につながると思われる。

一方，男子トップ選手が競技を継続する環境が十分に整備されていないことが多い。さらに，ジュニアおよび大学のカテゴリーの強化選手にとって，海外強化合宿を実施するのに限られた期間しかないことや，強化チームや選手をサポートする体制が十分に整備されていないことが問題となっている。これらの強化チームを指導する人材を確保し，選手を育成・強化するシステムを構築し，より多くのチームや選手を海外強化合宿に派遣し，WCT大会に参戦させることも課題となっている。

弱みとしてあげられることはいくつかある。まず，他競技と比較して登録競技者数が少なく（男子約1600名，女子は約800名），国内の選手層が薄いことである。また，徐々に変わりつつあるが，カーリング選手の中にはアスリートとしての意識が低い選手が少なからずいることである。カーリングが老若男女誰でも楽しめるスポーツである反面，単にオリンピックをその延長ととらえている選手や指導者，関係者もいるのである。そして，強化チームに携わる指導者の不足が問題としてあげられる。絶対的な登録者数が少ない上，選手寿命が長いので，指導者のなり手がいないのが現状である。強化チームに携わる指導者の養成やジュニア育成・強化のための新たな人材育成システムを検討する必要がある。

## 2. 中長期計画

### 2-1：育成・強化のためのアスリートパスウェイ

本会の強化方針は、強化チームを海外強化合宿に派遣し、国際競技力向上を図ることである。この方針に基づき、オリンピックでの金メダル獲得を目指して強化活動を進める。カーリングの育成・強化のためのアスリートパスウェイを下図に示す。中央に FTEM のレベル、右側には日本代表、強化チームのカテゴリー、左側には競技大会のレベルや WTR の目安を示した。現在本協会の強化事業として活動しているのは、現在は Talent3 以上の部分になる。

Talent3 では、JJCC、ブロックジュニア選手権大会出場選手が対象となる。その中から YOG 日本代表を選考し、大会に向けておよそ 9 カ月間国内外での強化を図る。Talent4 においては、JJCC 優勝チームが対象である。ジュニア日本代表としておよそ 10 カ月間国内外での強化活動を実施し、WJCC に臨むことになる。Elite1 では、JJCC や全日本大学選手権大会出場選手を対象にワールドユニバーシティゲームズ (WUG) 日本代表を選考する。WUG 日本代表はおよそ 9 カ月間強化活動を経て、大会に臨む。また、このレベルでは JCC 上位に相当するエリート強化チーム C も対象となる。海外強化合宿に派遣し、国際競技力向上を図る。Elite2 においては、「強化チーム選考規程」により決定したエリート強化チーム A、エリート強化チーム B が強化対象となる。また、JCC 優勝チームがパンコンチネンタル選手権大会や世界選手権大会の日本代表となる。より多くの国際経験を積み、WCT 世界チームランキングも上位に位置するようになると、ランキング上位チームのみが招待されるグランドスラム大会(GSOC)へも出場できるようになり、国際競技力向上の好循環に入ることが期待される。Elite3 では、オリンピック日本代表や世界選手権大会日本代表 (1~6 位入賞) のチームが該当する。頂点の Mastery はオリンピックのメダリストである。

現在 Foundation3 から Talent2 までの育成の部分構築しつつある。これらのカテゴリーの競技大会として、全日本小学生カーリング選手権大会、全日本中学生カーリング選手権大会が開催されるようになった。令和 5 年度開催する「ナブテスコ ユースカーリングアカデミー (ポテンシャルの高い中学・高校生競技者 (Talent3 相当) を対象に育成・強化を図る講習会)」に次ぐ Talent 2 までの講習会の開催が望まれる。

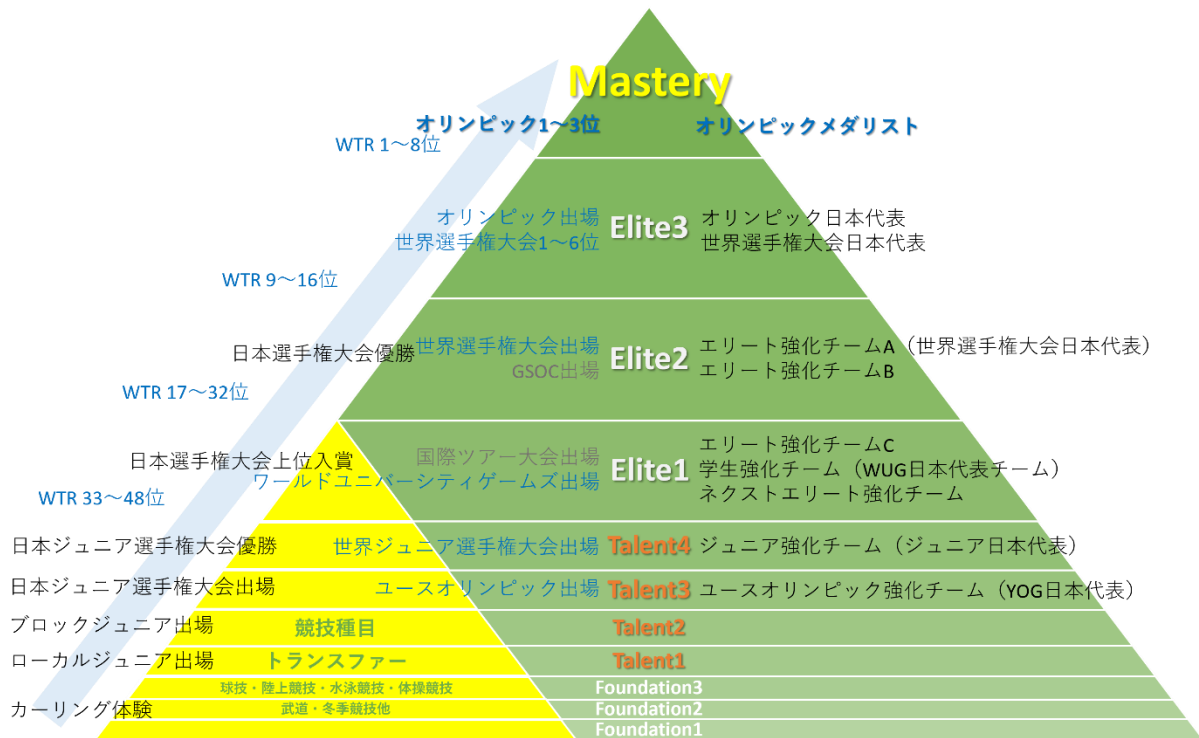


図. カーリングのアスリートパスウェイ (FTEM) .

## 2-2 : 4 年プラン

### 2-2-1 : 目標（現状可能な目標）とマイルストーン

#### 1) 目標

オリンピック・パラリンピック競技大会における目標（現状可能な目標）
<男子カーリング> 6 位入賞 <女子カーリング> 優勝・金メダル獲得 <ミックスダブルスカーリング> 6 位入賞

#### ▼目標を設定した理由や根拠

<男子カーリング> まずは堅実に出場権獲得を目指し、出場できた場合は 6 位入賞を狙う。北京大会で出場を逸しているためである。オリンピックの出場チーム数は 10 である。日本の WCF 世界ランキングは 8 位、WTR（国ごとの最上位チーム）は SC 軽井沢クラブが 9 番目である。男子のオリンピック出場するレベルのチームは実力が伯仲しており、実力的にはまだボーダーライン上といえる。
<女子カーリング> 日本女子は平昌大会（銅メダル）、北京大会（銀メダル）と二大会連続でメダルを獲得することができた。2026 年ミラノ・コルティナ大会においては、それ以上の成績を目指し、優勝（金メダル獲得）を目標とする。
<ミックスダブルスカーリング> まずは堅実に出場権獲得を目指し、出場できた場合は 6 位入賞を狙う。二大会で出場を逸しているためである。オリンピックの出場チーム数は 10 チーム。日本の WCF 世界ランキングは現在 8 位。WTR（国ごとの最上位チーム）は 6 番目（松村・谷田 8 位）であり、ようやくオリンピック出場の可能性が見えてきたところである。

#### 2) 目標達成に向けたマイルストーン

年度	マイルストーン（検証指標）	結果
2022	<男子カーリング> 2023 年世界男子カーリング選手権大会(WMCC)プレーオフ進出（6 位以内） 2022 年パンコンチネンタルカーリング選手権大会(PCCC)5 位以内 WCF 世界チームランキング(WTR)25 位以内 1 チーム, 35 位以内 1 チーム, 40 位以内 1 チーム <女子カーリング> 2023 年世界女子カーリング選手権大会(WWCC)プレーオフ進出（6 位以内） 2022 年 PCCC（5 位以内） WCF 世界チームランキング 16 位以内 1 チーム, 30 位以内 2 チーム <ミックスダブルスカーリング> 2023 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会(WMDCC)プレーオフ進出（6 位以内）	<男子カーリング> 2023 年 WMCC7 位入賞, 2022 年 PCCC4 位入賞, WTR 16 位（SC 軽井沢クラブ）, 38 位（TM Karuizawa） <女子カーリング> 2023 年 WWCC6 位入賞, 2022 年 PCCC 優勝, WTR 4 位（ロコソラーレ）, 19 位（中部電力）, 25 位（Fortius） <ミックスダブルスカーリング> 2023 年 WMDCC 準優勝

2023	<p>&lt;男子カーリング&gt;  2024年 WMCC プレーオフ進出 (6位以内)  2023年 PCCC5位以内  WTR 16位以内1チーム, 24位以内1チーム, 32位以内1チーム</p> <p>&lt;女子カーリング&gt;  2024年 WWCC プレーオフ進出 (6位以内)  2023年 PCCC (5位以内)  WTR 8位以内1チーム, 16位以内1チーム, 24位以内1チーム</p> <p>&lt;ミックスダブルスカーリング&gt;  2024年 WMDCC プレーオフ進出 (6位以内)  WTR 8位以内1チーム, 24位以内1チーム</p>	
2024	<p>&lt;男子カーリング&gt;  2025年 WMCC プレーオフ進出 (6位以内)  2024年 PCCC5位以内  WTR12位以内1チーム, 16位以内1チーム, 24位以内1チーム</p> <p>&lt;女子カーリング&gt;  2025年 WWCC メダル獲得  2024年 PCCC (5位以内)  WTR8位以内1チーム, 16位以内1チーム, 20位以内1チーム</p> <p>&lt;ミックスダブルスカーリング&gt;  2025年 WMDCC プレーオフ進出 (6位以内)  WTR 8位以内1チーム, 20位以内1チーム</p>	
2025	<p>&lt;男子カーリング&gt;  2025年 PCCC5位以内  WTR12位以内1チーム, 16位以内1チーム, 24位以内</p> <p>2026年 WMCC プレーオフ進出 (6位以内)</p> <p>&lt;女子カーリング&gt;  2025年 PCCC5位以内  WTR8位以内1チーム, 16位以内1チーム, 24位以内1チーム</p> <p>2026年 WWCC プレーオフ進出 (6位以内)</p> <p>&lt;ミックスダブルスカーリング&gt;  2025年 WMDCC16位以内  WTR 8位以内1チーム, 20位以内1チーム</p>	

▼マイルストーンを設定した理由や根拠

#### <男子カーリング>

オリンピック出場権資格が得られるのは、オリンピック前2年間の世界男子カーリング選手権大会(WMCC)で獲得した出場資格ポイントの最上位7チーム、オリンピック最終予選最上位2チーム、開催国の1チームである。WMCCでオリンピック出場資格ポイントを確実に獲得するには、二大会連続で7位以上の成績を収めることである。なので、WMCCでは常にプレーオフ進出(6位以内)を目指すことで、自ずとオリンピック出場に近づくことができる。また、オリンピック前年のWMCCでプレーオフ進出チームの国がオリンピックでメダルを獲得する確率が高いためである。

さらに、WCF世界チームランキング(WTR)の目標も設定する。オリンピック、WMCCのメダル獲得国は、WTRの上位チームの国であり、ランキング16位以内のチームはグランドスラム大会に招待され、国際競技力向上の好循環に入ることができるためである。

#### <女子カーリング>

マイルストーンとして、2024年世界女子カーリング選手権大会(WWCC)はプレーオフ進出、2025年同大会はメダル獲得と設定し、2026年ミラノ・コルティナ大会金メダル獲得に向けてステップアップするプランを立てている。オリンピックでのメダル獲得国は、直近2年の世界選手権大会でメダルを獲得している傾向が強いため。

さらに、WTRの目標も設定する。オリンピック、WWCCのメダル獲得国は、WTRの上位チームの国であり、特にランキング10位以内のチームはメダルを獲得する可能性が非常に高いため。

#### <ミックスダブルスカーリング>

オリンピック出場権資格が得られるのは、オリンピック前2年間の世界カーリング選手権大会(WMDCC)で獲得した出場資格ポイントの最上位7チーム、オリンピック最終予選最上位2チーム、開催国の1チームである。WMDCCでオリンピック出場資格ポイントを確実に獲得するには、二大会連続で7位以上の成績を収めることである。なので、WMCCでは常にプレーオフ進出(6位以内)を目指すことで、自ずとオリンピック出場に近づくことになるため。さらに、オリンピック前年のWMCCでプレーオフ進出チームの国がオリンピックでメダルを獲得する確率が高いため。

## 2-2-2 : 目標達成のための戦略方針

### 1) 成功要因 ※優先順位が高い順に記載

	目標達成に重要となる要因（成功要因）
①	海外強化合宿の実施（国際大会への参戦）
②	国際競技力の高いチームを日本代表として選出するシステムの構築
③	主要国際大会でのストーン、アイスに関する情報収集・分析、強豪国チームに対する戦術情報収集・分析
④	主要国際大会でのコンディション維持

#### ▼上記成功要因の設定理由及び到達基準

- ①男子、女子エリート強化チーム A・B は、国際大会（10 大会以上）の出場を目指す。ミックスダブルスエリート強化チーム A・B は、国際大会（5 大会以上）の出場を目指す。
- ②強化関連チーム（前回大会優勝チーム、準優勝チーム、強化委員会推薦チーム）の日本選手権大会や日本ミックスダブルスカーリング選手権大会への出場。
- ③国際大会でのストーンチェック、海外チームの戦術分析・スコア分析
- ④国際大会へのトレーナーの派遣

### 2) 戦略：成功要因を踏まえ、目標と現状のギャップを埋めるための具体的な方策

① 国際競技力向上のための強化方針は、国内有力チームを海外強化合宿に派遣して、海外強豪チームとの試合を経験させることである。スウェーデン、韓国、カナダ、スイス、カナダ、ロシア、スコットランドなどの強豪国のチームは、1 シーズン中にワールドカーリングツアー（WCT）などの国際大会に 10～15 回出場している。世界カーリング連盟(WCF)世界チームランキングで 20 位以内ランクされるようになると、世界選手権大会やオリンピックでのメダルの可能性が出てくる。日本の強化チームもそれと同等数の国際大会、少なくとも国際大会 10 大会に出場し、国際経験を積む必要がある。WCF 世界チームランキングで上位にランクされるメリットは強化の好循環に入れることだ。つまり、ランキング上位のチームはグランドスラム大会に招待され出場できるようになり、強豪チームとの対戦も増加するうえ、大会の結果に対して付与されるポイントも高くなる。複数の国内チームがこのレベルで競合する状況を作ることが望まれる。ミックスダブルスの強化チームは、海外の国際大会を少なくとも 5 大会は経験しておく必要がある。

② 日本カーリング選手権大会(JCC)は、世界カーリング選手権大会とパンコンチネンタルカーリング選手権大会の日本代表（男子、女子）を決定する大会である。これらの国際大会には、国際競技力が高いチームを日本代表として間断なく派遣し続ける必要がある。エリート強化チーム A・B や世界チームランキング上位チーム等が JCC に出場できる条件を整備する。また、日本ミックスダブルスカーリング選手権大会(JMDCC)は、世界ミックスダブルスカーリング選手権大会の日本代表を決定する大会である。ミックスダブルス強化チーム A・B と強化委員会推薦チーム 6 チームが出場できる条件を整備する。こうすることで、JCC や JMDCC における競技水準が向上し、出場チーム間でより高い競技水準で競い合ったうえで、日本代表が選出できるようになる。

さらに、JCC や JMDCC においては、主要な国際大会と同等の条件のストーンやアイスなどの環境を提供することが求められる。競技委員会、アイスメイク研究会の協力のもと、環境を整備する。

③ カーリングの競技力の要素には、アイスの読みとストーンのマネジメントがある。選手個人のスキル、チームのパフォーマンスはこれらの要素と深く関係している。WCF 主催の主要国際大会については、アイスやストーンの情報を日本カーリング協会の強化委員会が管理し、強化チーム間で共有する。また、大会でのデータ収集は強化スタッフがサポートし、チームに提供する。また、カーリングは戦術や戦略が重要な種目である。WCF 関連大会にとどまらず、各国選手権大会や国際ツアー大会の戦術やスコアの分析が求められる。今後、分析スタッフの雇用や人材育成を検討していく。

④ 主要国際大会は一週間以上にわたるので、選手のコンディション維持が必要である。特に世界選手権大会は予選の7日間一日2試合、さらにプレーオフに進むと9日間にもおよぶ。大会の最後まで高いレベルのパフォーマンスを発揮するには、当然ながら選手には体力向上のために継続的なフィジカルトレーニングが求められる。さらに、より良いコンディションを大会で維持するには、トレーナーによる身体のケアやバランスのよい食事が必要となってくる。本会医科学委員会と連携し、トレーナーや管理栄養士を国内・外の強化合宿や主要な国際大会に派遣してもらい、選手のコンディションの維持・向上をサポートする体制を充実させていく。



## 2-2-3 : ターゲットアスリート、指導者（コーチ）、強化スタッフ

### 1) ターゲットアスリート

#### ①ターゲットアスリート一覧（別添 1）

#### ②日本代表選手の選考方法

日本代表選手選考規程（別添 4）に従い、選考する。

世界カーリング選手権大会、パンコンチネンタルカーリング選手権大会の日本代表選手（男子・女子）は、原則日本カーリング選手権大会優勝チームから選考される。また、2026年ミラノ・コルティナ大会日本代表選手（男子・女子）の選考方法については現在ワーキンググループが検討中で、令和5年8月までに決定し、公表する予定である。

世界ミックスダブルスカーリング選手権大会の日本代表選手は、原則日本ミックスダブルスカーリング選手権大会優勝チームから選考される。また、2026年ミラノ・コルティナ大会日本代表選手（ミックスダブルス）の選考方法は現在検討中で、令和4年末までに決定し、公表する予定である。

世界ジュニアカーリング選手権大会の日本代表選手（男子・女子）は、原則日本ジュニアカーリング選手権大会優勝チームから選考される。ワールドユニバーシティゲームズやユースオリンピックの日本代表選手については、都道府県協会から推薦された選手の中から選考会を経て選考される。いずれの категорияにおいても、強化委員会が推薦した選手を理事会で承認して、日本代表選手として決定する。

### 2) 指導者（コーチ）、強化スタッフ

#### ①指導者（コーチ）、強化スタッフ一覧（別添 1）

#### ②チーム構成と選考方法

日本代表チームの監督、指導者、強化スタッフは、強化委員会から推薦された者を理事会で承認して決定する。

## 2-3 : 8年プラン

### 2-3-1 : 目標（現状可能な目標）とマイルストーン

#### 1) 目標

オリンピック・パラリンピック競技大会における目標（現状可能な目標）
<男子カーリング> メダル獲得 <女子カーリング> メダル獲得 <ミックスダブルスカーリング> メダル獲得

#### ▼目標を設定した理由

<男子カーリング・女子カーリング> 現在の強化チームに加え、若手選手を中心としたチームが競合して、2030年大会を目指すことを想定している。目標達成に向けたマイルストーンを達成できれば、自ずと男子・女子ともにオリンピックでのメダル獲得が期待できる。
<ミックスダブルスカーリング> 男子・女子の選手層が現在より厚くなり、国際競技力の高い選手が増加すると想定している。ミックスダブルスカーリングに専念する国際競技力の高い選手の層が厚くなると、上位の成績を狙うことができる。

#### 2) 目標達成に向けたマイルストーン：8年先の目標達成に向けた最初の4年間におけるマイルストーン

年度	マイルストーン（検証指標）	結果
2022/4 ～2024/3	<男子カーリング> 2023年・2024年世界男子カーリング選手権大会(WMCC) プレーオフ進出 2023年・2024年世界ジュニアカーリング選手権大会(WJCC)7位入賞 2023年ワールドユニバーシティゲームズ(WUG)7位入賞 <女子カーリング> 2023年・2024年世界女子カーリング選手権大会(WWCC) プレーオフ進出 2023年・2024年 WJCC7位入賞 2023年 WUG7位入賞 <ミックスダブルスカーリング> 2023年・2024年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会(WMDCC)プレーオフ進出(6位以内)	<男子カーリング> 2023年 WMCC 7位入賞, 2022年 WJBCC5位入賞, 2023年 WUG8位入賞  <女子カーリング> 2023年 WWCC6位入賞, 2023年 WJCC 準優勝, 2023年 WUG8位入賞  <ミックスダブルスカーリング> 2023年 WMDCC 準優勝
2024/4 ～2026/3	<男子カーリング> 2025年・2026年 WMCC プレーオフ進出 2025年・2026年 WJCC 7位入賞 2025年 WUG 7位入賞 <女子カーリング> 2025WWCC メダル獲得, 2026年同大会プレーオフ進出 2025年・2026年 WJCC7位入賞 2025年 WUG7位入賞 <ミックスダブルスカーリング>	

	2025 年 WMDCC プレーオフ進出（6 位以内）, 2026 年 同大会 16 位以内	
--	---	--

#### ▼マイルストーンを設定した理由

##### <男子カーリング・女子カーリング>

現在の強化チームを対象としたマイルストーンは、4 年プランと同じものにした。

ジュニアチームおよび若手を中心としたチームを対象としたマイルストーンは、世界ジュニアカーリング選手権大会 (WJCC), WUG 7 位入賞以上とした。WJCC と WUG では 7 位以上の成績を収めると、次大会の出場権獲得につながる。中長期的な強化を考えると、日本チームとして少なくとも WJCC や WUG に出場し続けていくことが重要と考える。世界的にも、WJCC や WUG 出場選手がのちにオリンピックで活躍する傾向にある。海外の同世代のチームと対戦する機会が得られる。

##### <ミックスダブルスカーリング>

強化委員会推薦チームを中心とする強化方針には大きく変わらないので、マイルストーンは 4 年プランと同じものとした。

## 2-3-2 : 8 年後の目標達成を見据えた育成・強化の基本方針

- ジュニア強化チーム, WUG 強化チームの海外強化合宿派遣  
ジュニア日本代表と WUG 日本代表を海外で実施される国際ツアー大会に出場させる。学業に支障が出ないように海外強化合宿を実施し、国際試合経験を積ませる。
- ジュニア強化チーム, WUG 強化チームの国内ツアー大会等への参戦  
ジュニア日本代表, WUG 日本代表に国内ツアー大会に優先的に出場できるように、関係者に協力を求める。また、YOG 日本代表は日本ミックスカーリング選手権大会に出場し、強化を図る。
- ジュニア担当コーチのブロック巡回指導やジュニア国内合同強化合宿
- 若手有望選手のミックスダブルスカーリングへの取り組み促進  
強化委員会推薦チーム選考会への参加資格をジュニア強化チームの選手にまで拡大。

## 2-3-3 : ターゲットアスリート、指導者（コーチ）・強化スタッフ

### 1) ターゲットアスリート

#### ①ターゲットアスリート一覧（別添 1）

#### ②活躍が期待されるアスリートの理想像

##### ▼目標達成の可能性を有するアスリートの要素・資質

「カーリングの精神 the Spirit of Curling」が求める「good sportsmanship」「kindly feeling」「honourable conduct」を体現できるアスリート。

### 2) 指導者（コーチ）・強化スタッフ

#### ①指導者（コーチ）・強化スタッフ一覧（別添 1）

## ②活躍が期待されるコーチの理想像

### ▼アスリートのパフォーマンスを最大限に引き出すことができるコーチやスタッフの要素・資質

指導者・強化スタッフの理想像は、「カーリングの精神 the Spirit of Curling」が求める「good sportsmanship」

「kindly feeling」「honourable conduct」を体現できる者

指導者の資質は、国際大会での指導経験が豊富であり、アスリートセンタードの考えで取り組めること。

強化スタッフの要素はスポーツ科学、スポーツ医学、栄養学、マネジメント、などの知識やスキルをいかして国際競技力向上のために活動できること。

### 3. 強化戦略プラン推進体制と環境整備

#### 3-1 : 拠点

##### 1) 練習拠点の必要性と活動方針

国内に公的施設の通年型カーリング専用施設が七か所ある（軽井沢町，札幌市，北見市，稚内市，青森市，盛岡市）。これらの地域の選手にとってはシーズンに関係なくオンアイス練習を実施することができることが優位な点である。本会強化選手が日常的にオンアイスでの基礎練習を十分に行い，基本動作の技術を確実に習得することが，国際大会での安定したパフォーマンス発揮につながっている。

また，本会の国内強化合宿として，これらの施設を利用している。強化の一環として，国内ツアー大会等への出場を強化チームに対して推奨している。軽井沢アイスパークでの軽井沢国際カーリング選手権大会，札幌市でのどうぎんクラシック，北見市でのアドヴィックスカップおよびアルゴグラフィックスカップ，稚内市での稚内みどり Challenge Cup の事前合宿として利用することもある。

##### 2) 主な活動場所

別添 1 参照

#### 3-2 : 強化戦略プラン推進体制

##### 1) 推進体制図

別添 2 として添付

##### 2) 推進体制

###### ①強化戦略プラン策定・共有

項目	内容
策定者	強化委員長
最終承認者	本会会長
承認方法	理事会での承認
共有範囲	日本カーリング協会関係者全般

###### ②強化戦略プランの実行状況に関するモニタリング及び検証・評価

項目	内容
モニタリング及び検証・評価の項目	マイルストーン
実施時期	年度末（5月下旬）
実施者	強化委員会

## 4. 別添資料

- 別添 1) 有望選手及び指導者・強化スタッフ一覧、強化拠点
- 別添 2) 推進体制図（強化戦略プランを推進する上での実施体制）
- 別添 3) 年間事業計画
- 別添 4) 日本代表選手選考規程
- 別添 5) 強化チーム選考規程